

(1枚につき、5名様まで有効)

開館時間：午前9時30分～午後5時
 休館日：毎週月曜日(祝日などの場合は翌日)

切り取ってご利用ください

特別企画

「大人と子どもで楽しむ絵と音楽～どんより♡わくわく どんな色？」

美術館は、大人と子どもが一緒になって、絵と音楽の世界に親しむための、はじめの一步となる講座を開催しています。

今回は、絵を見たときや音楽を聴いたときに感じる気持ちをテーマに、絵と音楽の世界を楽しみます。

小さなお子さんをはじめ、どなたでも参加できますので、家族みんなで、気軽にご来館ください。



家族みんなで遊びにきてね

と き：3月14日(土)午後2時～午後3時30分
 講 師：宮地ゆみ氏(ピアニスト)・当館学芸員
 費 用：一人300円(展示室観覧・飲み物付き)
 定 員：20名(先着順)
 申込方法：美術館へ電話で申し込む

セレクション 展覧会「selection 2015 春 美術を見る楽しみ」

会 期：4月5日(日)まで
 開館時間：午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
 入 館 料：一般720(300)円、大学生510(200)円、
 高校生以下は無料
 ※()内は市民割引券を利用した際の料金です。



◆中世日光の繁栄と衰退
 中世の日光は、関東の守りとして歴代將軍の信仰を受け、多くの施設が整備され発展します。また、この時期になると中禅寺湖の周囲を含む日光の峰々を巡る修行の形態が確立します。

関東の一大霊場となった日光山は、現在の日光市と鹿沼市、宇都宮市を含む広大な領地と、数百の僧坊を有する大社寺となります。

しかし、戦国時代、領内の壬生氏が豊臣秀吉と対立する北条氏方についたことから、戦後、所領の大部分を没収され衰退してしまいます。

◆神として祀られた徳川家康
 日光山の再興の契機となったのは、家康の霊廟の造営によります。

元和2(1616)年に家康は駿府城で没し、遺言により、翌年日光山に祀られますが、これは慈眼大師天海の進言によるものとされています。

天海は、家康、秀忠、家光の三代にわたる將軍に仕えた僧で、自身は

日光山の最高責任者でもありました。昔の日光山を知る天海が幕府のある関東と全国を守るため、日光を選ぶのはもつともなことです。また、家康の神号を巡って、「権現」か「明神」かで高伝と激論を交わしたことが伝えられています。三社権現の歴史を持つ日光山には「東照大権現」がふさわしいことを天海はよく知っていたのです。

秀忠の整備した霊廟は東照社と呼ばれます。より格の高い「宮」の社号を賜るのは造営から30年近く過ぎた後です。写真は太田市の世良田東照宮の拝殿です。これは東照社の奥院拝殿を移築したもので、素朴なたたずまいをしています。

これを現在に伝わる豪華な社殿に改修したのは家光ですが、山内の姿は当時と現在とでは決定的な違いがあります。



世良田東照宮の拝殿

連載 **世界遺産 日光の社寺**

教育委員会事務局 文化財課
 日光市中央町15-4 ☎(30)1861

奈良時代から続く伝統の儀式

その後、入峰行の場合だけでなく、日光三社権現(千手観音・阿彌陀如来・馬頭観音)や開運三天(大黒天・弁財天・毘沙門天)の信仰が結び付き、江戸時代に現在のような強飯式の形になったと伝えられています。

まず、日光山秘法の「探灯大護摩供」と内陣で行う「三天合行供」が同時に祈禱され、続いて「強飯頂戴の儀」が執り行われます。修験者の姿をした強飯僧が、山盛

りのお椀を強飯頂戴人に差し出し、「75杯一粒残さず食べろ」と責め立てることから「日光責め」とも呼ばれます。

江戸時代には、徳川將軍家の名代や十萬石以上の名だたる大名が、「わが藩の名誉」として強飯頂戴人に名を連ねました。というのも、日光山といえば、天皇の皇子を「輪王寺の宮」として迎えた鎮護國家の道場として天下に知られ、大名といえども、簡単にはこの儀式に参加できなかったためです。

最後に儀式で授かった縁起物を参拜者へ向けてまく「がらまき」が行われていま

現在、三仏堂の大修理を行うため、あと数年間は護摩堂で執り行われます。



強飯式の様子

くわしくは 総合政策課 日光ブランド戦略室 ☎(21)5131

進め！**地域おこし協力隊**

くわしくは 地域振興課 地域振興係 ☎(21)5147

皆さんこんにちは。栗山地域おこし協力隊の清水です。今回は栗山地域で行っている、高校生ボランティア活動を紹介します。

現在栗山の川俣地区では、市社会福祉協議会と連携して、高校生がボランティア活動をしています。その活動内容は、地域行事への参加と地域での遊びがメインです。活動内容を決めるに当たり、①地域の活性化、②川俣に愛着をもってもらう、③高校生に高齢化集落の現状を知ってもらう(地域について考える機会をもってもらう)ことを目標に活動を考えています。

活動内容は、地域住民や市社会福祉協議会、市職員のメンバーで構成される「川俣みらい委員会」の会議で考えます。地元の方が参加することで、伝統芸能の獅子舞や夏祭りへの参加、鹿狩り、釣りや昆虫採集といった遊びなど、今まで実現できなかったことができようになりました。

実際に参加した高校生たちは、自然豊かな地域での遊びに魅力を感じ、地域行事で人と付き合うことの楽しさを感じることができました。

またそういった地域での活動以外にも、高等学校で授業も行いました。ボランティアには今市高等学校と今市工業高等学校の生徒が参加していますが、それぞれの部活動の時間に行います。授業では活動内容の共有だけでなく、活動を通して高校生が感じたことを発表したり、来年どのように川俣と関わりたいかを話し合ったりするなど、地域について考える機会を持つようにしています。

今年度は地域の良い意味での変化や、高校生たちの内面の大きな成長を感じた。平成27年度も多くの人に、喜び楽しんでもらえるよう、活動を続けたいです。



高校生ボランティア活動の様子